

会 議 議 事 録

1 会議名	平成28年度 第3回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	平成29年2月17日（金曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	ながおか市民防災センター 2階 研修室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>高野礼子委員長、兒玉優子副委員長、西山宗彦委員、 桃生鎮雄委員、高橋呈子委員、相澤直広委員、加藤秋子委員、 榎園早苗委員、片桐直子委員、成田涼委員、田邊香織委員、 佐藤紫野委員、横澤勝之委員、諏方浩二委員、木村春美委員、 ジョーンズ文穂委員、内藤純子委員、長谷川直子委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>小池由佳氏</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：波多文子 商業振興課：倉地真 ながおか・若者・しごと機構推進課：里村誠 学校教育課：淡路弘幸 保育課：大野宏、石田美智子、佐藤陽子、中村俊一 子ども家庭課：大矢芳彦、梅沢一茂、五十嵐涼子、小林恵美子、 鷲頭和也、井口陽子、小林広子</p>
5 欠席者名	池田浩委員、河野瑞枝委員
6 議題	<p>(1) 平成29年度長岡市子ども・子育て会議について</p> <p>(2) 平成29年度の子育て支援事業について</p> <p>(3) 平成29年度の長岡市教育・保育施設の利用定員について</p> <p>(4) 平成29年度の長岡市青少年健全育成総合対策実施計画について</p> <p>(5) アドバイザーからのまとめ</p>

7 会議結果の概要	<p>(1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1に基づき説明した。 <p>(2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.2に基づき説明した。 ・各委員から資料No.2の内容について感想を述べてもらった。 <p>(3) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.3に基づき説明した。 <p>(4) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.4に基づき説明した。 <p>(5) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーから全体を通して御意見をいただいた。
8 会議内容	
<p>1. あいさつ (事務局)</p> <p>2. 議事 (1) 平成29年度長岡市子ども・子育て会議について (事務局) 資料No.1に基づき説明</p> <p>説明の前に、今年度の会議の中で、3つの部会とまちづくり市民研究所との連携体制の中取り組ませていただきましたので資料はありませんがご紹介します。</p> <p>一つ目は「ライフデザイン」に関するワーキング部会です。中身につきましては、ライフデザインを描くために必要な情報についてグループワークを実施し、アイデア出しなどをさせていただきました。11月に開催した本会議においてもグループワークを実施させていただきましたが、そこで出た意見をもとに、情報提供の冊子作成や情報コンテンツ作成について予算要求させていただきましたのですが、財政状況が厳しい中、残念ながら予算が付きませんでした。予算はありませんが、今後も、あるものを手直ししたり、工夫しながら引き続き取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>二つ目に「子育てあんしんの避難所」について部会を設置し、部会員の皆さまから貴重な御意見をいただきましたので、それについては28年度中に履行したものもありますし、29年度に予算要求したものもあります。</p> <p>三つ目は「企業支援」についての部会の設置です。これは勤労者福祉サービスセンターと連携していましたが、引き続き商業振興課、男女共同参画推進室などと一緒に連携して取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>まちづくり市民研究所との連携についてですが、昨年7月に公募の市民13名でスタートしましたが、「みんなで育てる みんなが育つ」をテーマに課題の整理や研究をして施策の実行につなげていくものです。</p> <p>(ながおかまちづくり市民研究所については資料No.1の2枚目「ナガオカ・ミナイク・プロジェクト」のチラシのとおり)</p> <p>続いて、3の「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」についてですが、これは平成27年度から31年度まで5年間の計画であり、次年度以降、32年度の次期計画策定に向け</p>	

た取組を実施していきたいと思えます。29年度は、28年度までの実績を踏まえ、新たな課題の整理などを行う予定です。そして、30年度はニーズ調査を実施したいと思っておりますので、29年度中に項目について検討したいと考えております。31年度には、32年度のからの計画の策定を考えております。

29年度の体制についてですが、子ども・子育て会議の下に2つの部会の設置と、今年度と同様にまちづくり市民研究所との連携を考えております。「貧困対策」に関する部会では、次期「あいプラン」の策定が始まっていく中で、子どもの貧困に特化した部会を設置することで重点的に検討していきたいと考えております。

進め方の案としては、「あいプラン」にも記載のある、現在市で関わっている子どもの貧困に関する様々な取組の中身や実績等の報告、また、国の情報や県で取り組んでいる実態調査の報告などを情報提供させていただきながら、部会員の皆さまと課題の検討をしていきたいと思えます。

二つ目の「発達に障害のある乳幼児への支援の拡充について」ですが、発達に障害のあるお子さんの支援体制については、柿が丘学園や発達支援センターなどが今現在もしっかり取り組んでいますが、よりよい支援体制について検討する部会を考えております。地道に取り組んでいる機関にスポットをあてながら取り組んでいきたいと思えます。

1連携については、今年度同様まちづくり市民研究所と連携して取り組んでいきたいと思っております。

※質疑なし

3. 議事 (2) 平成29年度の子育て支援事業について

(事務局) 資料No.2に基づき説明

(委員長) 今の説明について、委員から感想を一言ずつお願いします。

(委員)

具体的な取組をされているし、私自身の活動の中で、できることがいくつかあるなと感じています。委員の中でもいろいろ力を借りたいと思っている方もいるので、これからも御協力いただきたいと思います。

(委員)

非常にもりだくさんの内容で、いろいろなことが少しずつ進んでいくんだなと感じています。特に医療費助成について、中学生まで全ての家庭が対象となるとのことで、なかなか三人以上のお子さんを持つ御家庭は少ないと思うので、非常に助かる御家庭が多いと思えます。

それに合わせて適正な受診の仕方をお母さん方に教えていくのも必要だと思えます。虫に刺されただけで小児科を受診するという時代になってしまったので御家庭でのセルフメデュケーションについて、お子さんが小さいうちから教えてあげるのも大事だと感じています。

避難所にたくさんの備蓄品を備えることは非常にいい取組だと思います。期限のあるものについては講座で活用されるということですが、それでも余るようであれば貧困の御家庭にいくようにフードバンクなども御活用いただければと思います。

SNSについて、年齢に応じての取組として、親の責任から子どもの責任にだんだん移っていくということでしたが、小さいうちからの御家庭での教育が大切であり、基本は「持たせない」ということだと思います。お母さん方をみても、どこにいても8割方スマホをずっと見ていて子どもを見ていないという状況なので、とにかく子どもに触らせない、見せないという親の姿勢をキチンと見せないといけないと思います。

病児・病後児保育が増えるということで、非常に喜んでます。質問ですが、病児・病後児保育は療育園のところで行われるのでしょうか。

(事務局)

病児保育施設は療育園の脇に建設予定で、病後児保育施設は東部川崎保育園の園舎建て替えに伴い増設予定です。

(委員)

大変喜ばれると思います。やはり都会の方では共働きの御家庭が多く、長岡に病児保育が今現在一か所しかないと言うと驚かれます。子どもが病気になっても親は普通に働けるという環境を作っていないと、今後難しいのではないかと思うので、徐々に施設が増えていくといいなと思います。

(委員)

中学校卒業までの通院助成は子育て世代にとって非常に助かる内容だと思います。任意の予防接種の助成についても、白血病の方たちは御自分で料金を払いながら予防接種を受けていたということなので、今回の助成についてはすごく助かるものだと思います。

また、保育園の入園が早まってきたために、ロタウイルスの予防接種を受けることを悩んでいる方が多いので、全額補助という形ではないにしろ、支援があると保育園に入園されるお子さんをお持ちの御家庭については非常に助かると感じています。

ながおか子育て最幸プロジェクトに関しては、こんなに素晴らしいことをしているんだと再確認させていただき、とても参考になりました。

(委員)

様々なことが展開されていてすごいなと思いました。特に働き方改革については、子育てのワーキング部会でもありましたが、経営者と中間管理職の意識改革が大切だと感じていますし、県やいろいろな会社で「育ボス宣言」をしているところもあり、職場の中から子育てしやすい環境作りをされているところもあるので、ますます推進していったほしいと思います。

(委員)

支援事業が充実しているなど感じています。自分は専門家ではないので、話を聞いていると専門的な用語が多く、自分が父親の立場で聞いたときに何のことを言っているのか、関心を持ってよく見ないと分からないので、そこに取り組みづらいということがありました。横文字やカタカナも多く、前向きな父親が増えればいいのですが、とっつきづらい気がします。

SNSトラブル防止について、トラブルとは何を指しているのか教えてほしいのですが。

(委員)

今問題になっているのは、誹謗中傷及び悪口、全く悪気もなく自分や人の名前を載せてしまうという甘さです。今のところ、これらが大きなトラブルとして我々は捉えています。また、犯罪に巻き込まれたケースもあります。

(委員)

近年、PTAの方でも同じように標語を作ってPTAに配布して各家庭で実践してくださいという取組をそれぞれされていると思いますが、最近お子さんは今の実年齢プラス2～3歳上の年齢だと思って付き合っていかなければならないと言われ始めています。SNSの中で先程事務局が言われた、犯罪につながるということがあり、昨年も中学生の事件があり、そういったセイフティの部分は大人がかなり首を突っ込んでいかないと分からないと思います。私も小2の娘がおり、かなり過激な状況にありますので、親のほうで目を配っていかないといけないなと思っていますが、親同士があまり相手に言いづらいこともあるので、コミュニケーションが増えていかないといけないと感じています。

個人的に、私のまわりにもアレルギーのお子さんがたくさんいるので、ながおか子育て最幸プロジェクトの「惣菜開発」はいい取組であり、ぜひ関わってみたいなと思いました。

(委員)

SNSの取組について、母親にとっても重要だと思っており、中学生の息子さんをお持ちのお友達の話ですが、子ども同士でSNSのトラブルがあった時に、親の知らないところでのトラブルだったので、自分はどうしてみようもなかったと言っていました。自分たちが高校生の頃はそういったものはやっていなかったのですが、親がどうやって接すればいいのか、どう教育すればいいのか分からないので、ぜひ子どもが小さいうちから、親への教育の場があれば親はありがたいと思います。

うちの小学校では今年1年をかけてメディアとどううまく付き合っていくかをPTAで話していましたが、メディアが今は多種多様になっていて、親が子どもに規制をかけづらく、親が困っている状況にあるので、専門家の方が話をしてくれる場があるといいと思います。

ながおか子育て最幸プロジェクトについて、自分もママサークルに行ったことがあります。お茶会だけだとなかなか仲良くなれないところがあり、みんなで一つ

のものを創り上げるというのは仲間意識が生まれるため、お母さんたちをたくさん巻き込んでお母さんたちの輪が広がれば、長岡のお母さんたちがもっと元気になるのではないかと思います。

(委員)

長岡の支援事業は充実していると感じています。自分の子どもたちも大きくなって、医療費助成などの枠から外れていくので今のお子さんたちはうらやましいなと思います。

小5の娘を医者に連れていったとき、何年か前までは助成がきかなかったが一部負担金の530円で済んだので、こういったところで少しずつ助かる面があると思いました。

子育て支援員研修について、10月のコースを受けましたが、とても内容が充実しており有意義な研修だったので、来年度フォローアップ研修があるということで、こちららもぜひ受けようと思います。

自分がずっと支援を受ける側ではなく、互助だったり自助だったり、私たちも何かできることがあるのではないかと思いますので、ながおか子育て最幸プロジェクトのように巻き込まれていきたいと感じました。

(委員)

子育て支援員研修について、来年度機会があったら受けたいと思うのですが、一般の人でも受けることは可能なのでしょうか。また、研修をうけたあと、子育て支援施設で働いている方もいらっしゃると思いますが、それ以外の方がどのような活動をしていらっしゃるかわかりでしょうか。

(事務局)

一般の方でも受講できますし、受講後の活動について正確にはどういう状況かは捉えていませんが、我々も研修を受けられた方には保育園等で働いてもらいたいと思い、情報提供を行っています。実際に申し込まれた方の中には、もともと公立保育園等で保育補助という形で働いていた経験をお持ちの方もいらっしゃいましたので、そのまま保育園に勤めているという状況です。

(委員)

一度受けてみて、今後の私自身の活動の幅が広がればと思いました。

私は中2の息子がおり、SNSの取組には非常に興味がありましたので、詳しく見させていただきましたが、この資料がすごく見やすく分かりやすいと思いました。

内容について、防止策に非常に力を入れているようですが、親が防止できれば一番いいでしょうが、成長するにつれ、子ども自身も大人に近づいていく中で、なかなか防止しきれなくなっていくのが現実だと思います。

実際犯罪に巻き込まれたケースもあるとお聞きしたので、防止策だけの発信ではなく、実際巻き込まれたケースの発信も必要だと思うので、実際に経験した親の話

を発信してもいいかなと思います。防止に力を入れ過ぎると、いざ何かあった時に、考える力が生かせないのではないかと思います。

実際自分の息子が、悪気が無く書いたことが相手にとって悪い言葉だったというような経験をさせてもらいました。相手の方を傷付けてしまったけれど、息子と一緒に謝りに行き、今はまたいい関係になっていますが、いい経験になったと感じています。息子も、このようなことがあったから、2度としてはいけないと、すごく勉強になったと言っていましたので、やっちゃだめとばかり言うよりも、やって嫌な思いをするという経験を若いうちにされた方がいいかなと思います。

ながおか子育て最幸プロジェクトは楽しそうなので、自分も参加したいと思いました。このような子育ての楽しさを発信できれば、若い人たちにも子育てって楽しいんだろうなと感じると思うので、どんどん発信して行ってほしいと思います。

(委員)

SNSトラブルに関する取組について、事業内容にあった「情報モラル Navi」をもとに授業を進めていくとあったが、それは学校の先生向けの教材なのでしょうか。

(事務局)

市では「情報モラル Navi」という情報モラル学習ソフトを使い、教員が学習したり児童・生徒に見せたりしながら、情報モラルについて分かりやすく指導できるよう取り組んでおります。

(委員)

内容がよくわかりませんが、せっかくいいプロジェクトであり、対象が子どもたちなので、もっと楽しくしてほしいし、具体例があって子どもたちが分かりやすい内容で発信してるものがたくさんあるので、ただ体制を作るだけでなく、こうすれば伝わるということまで考えていければ楽しそうだし自分も関わりたいと感じました。

たくさん事業があって自分も初めて知った部分がありますが、私はながおか若者しごと機構のメンバーですが、育児支援について専門な知識はなく、一人のママとして「こういうのがあったらいいよね」とか「こうしたら楽しいよね」というような思いだけでやっていて、先日開催した座談会においても他にもそういう思いを持ったママがたくさんいて、事業を振ってもらえば「こういう事業を長岡市が始めるんだって」というのを他のママたちと共有すると、「これいいね」とか「こんな風に発信したいね」という形になるのかなと思いました。私たちは文字がたくさんあるとなかなか理解できないので、具体的な内容が分かれば、手伝えるよというママさんもいるので一緒にやれたらいいなと思いました。ただ事業をするだけでなく、どうしたら伝わるかを私たちは考えていて、座談会でもつながりを大事にしつつ、その都度テーマを設定して集まってきてもらっていますが、テーマが堅ければ堅いほど人は集まらないので、最近はいかに人に集まってもらえるかが課題で、入口を低く設定し、楽しみながら意見を吸い出し、つながっていくことが大切なんだという

ことが見えてきたので、難しいことは行政の皆さんに考えてもらい、私たちは一緒に楽しく意見を出し合って考えられたらいいなと思いました。

(委員)

子育ての渦中にあると情報を日々痛いほどキャッチできるのですが、子育てが済んだ者にとっては少し距離ができてしまった感じがします。

行政の話を知っていると、長岡独自に優しい心で市民に接してくださっているなというのを感じましたので今後とも続けてほしいと思っております。

子育て支援員研修はとてもいい取組だと思いますし、そしてフォローアップ研修はとても大事だと思います。1回で終わるのではなく、継続することで質も上がっていくと思います。自分の子どもが小学生の頃、このような研修に回数を重ねて出ていましたが、フォローアップ研修が途絶えてしまったのがとても残念でした。いい研修だったので、そのような研修を生かして、このようなところに持ってこれたらいいと思ったので、ぜひこのフォローアップ研修を細く長く続けていただけると若いお母さんも私たちぐらいの年代の方も、何か力になれるんじゃないかと思えます。

SNSの取組について、とても大事なことです。学校だけの取組でも家庭だけの取組でもだめなので、連携することが一番大事です。フィルタリングするだけで解決するものではなく、追いかげごっこになってしまい、子どもはフィルタリングされると余計見たくなくなってしまうので、子どもが生まれた瞬間から道徳教育として、親が子どもと接して、どういう接し方をすると相手が傷つくか、どういうことをされると相手が嫌な気持ちになるかを小さい頃から日々親が子どもに伝えていき、その延長線上に学校からの教育があると子どもはより得やすいのではないかと思います。

(委員)

あんしんの避難所について、関係者連絡会議について、平時から関係者は連絡を取り合うことが大切ということは自分自身もすごく感じています。地域で防災訓練をするのですが、参加しようとしたら案内文に「お子様はお連れにならないでください」とあり、実際子連れで避難しなければならないのに歩ける子くらいは連れていってもいいのでは、と感じました。どういう人が関係者ととらえられているのかお尋ねしたいです。

(事務局)

この事業については、子育ての駅が避難所を兼ねることができればいいのではないかと考えており、有事の際、日ごろから駅を利用されている方で家の状態が心配な方が避難所として利用していただければいいと考えています。

関係者についてですが、災害時はいろいろな方々がいろいろな支援をなさっています。例えば助産師会さん、母子保健推進員さん、主任児童委員さん、中越防災安全士会さんなど、有事の際にそれぞれの得意分野を生かして支援をなさっている団

体がたくさんありますが、その方々は、それぞれの得意分野で支援をされていますが、各団体が何をやっているかという情報が無かったりしていたので、それらがつながることによってよりよい効果的な支援ができると考えています。定期的に皆さんから集まっていただいて各団体の取組内容や、こんなことをやったらどうかなどを検討する会議を開きたいと考えております。

(委員)

自分も母子保健推進員をやっているのですが、助産師さんに来てもらって防災講座をしたこともありますし、大事なことだと思いますので是非お願いしたいと思います。

(委員)

あんしんの避難所の委員として、ワーキング部会に参加させていただいたり、まちづくり市民研究所の活動にも参加させていただいています。ながおか子育て最幸プロジェクトに皆さんから興味を示していただいてとてもうれしく思います。ワーキングに参加させていただいて、子育てあんしん支援者の養成というところも、物の配置だけではなく人を育てるような仕組みもつくっていただくととてもうれしく思います。

ままナビについても、自分自身が子育てをしていて、心配だったり不安だったりすることが多かったのですがこういったサポートが受けられるというのはとてもありがたいことだと思います。民間で、有料の育児講座もありますが、子育てに関することはお金を払える方だけが受けられるものではなく、不安の解消のためには、広く市民の方が参加できるような講座などが大事だと思っていますので、このままナビが長岡の必要な方に届くように、ながおか子育て最幸プロジェクトの方でも周知の協力をさせていただきたいと思います。

(委員)

中学生までの医療費の助成を受けられるのはいいことだと思っています。この年でも子どもたちに関わりたいと思っていますが、昔の頃は御近所や同じような年頃の子どもで遊んでいる中で怪我などしても訴えられることはなかったので、「あまり関わると怖いんだよ」と娘に言われると臆病になってきますし、関わりたいんだけど関わらない方がいいのかなと思っていますが、この会議の委員として参加でき、勉強できてよかったと思っています。

子育て支援員研修については、私ぐらいの年でも受けてもよろしいでしょうか。受けて就職しようとかいうことではないが、研修を受ければ、もっと自信をもって子どもたちと接することができるのかなと思います。

(事務局)

今年度実際受けられた方の中で50代から60代の方も大勢いらっしゃったので是非受けていただきたいと思います。

(委員)

要望するだけでなく、一つ一つ実現していくので支援が行き届いていくことを感

じています。どれもすばらしい取組ですが、特に目についたのがSNSの市P連ルールです。昨年度市P連ルールができ、各学校で説明会などをやっておりますが、ルールは守らなければならないと思いますので、家庭の中でどれだけルールが作られて、守られているのかなどアンケート調査をしているのでしょうか。

(事務局)

各学校において、学期末に学校評価を実施しており、保護者に対し、お子さんがルールを守っているかやコミュニケーションがとれているかなど、いろいろな質問をしている中で、各学校でそれを数値としてとらえていると思います。

(委員)

大体の学校においては、SNSについてはトラブルもありますし、関心が高いところなのでだいたい調査をしていると思います。また、メディアに関する研修もしており、地域の方にも参加いただき、この問題を取り上げています。市P連ルールや各学校のルールを守ることは確かに大事なんですけど、ある学校では、実際子どもたちに困り感があります。例えば、「LINE」なんかで夜中にメッセージが来て、見てしまうと「既読」がつき、それに返信しないと「既読スルー」といって無視したということになります。傍らにおいて返信しないといけないので子どもたちは大変なんです。それで生徒会を中心にして、自分たちでどういう風にしたらいいかルールを作りました。これは、長岡市の小、中学生全員が、ルールを作ったから守れるとかいう問題ではありませんが、自分たちや親が自らの問題としていろいろ考える、そのプロセスが大切で、そういう中で自分たちの意識を高めて考えていくことができるかが課題ではないかと思っています。

(委員)

生徒会の中で子どもたちが自分自身の問題として話し合いをしていることがわかりました。

(委員)

子育て支援員研修について、保育士の確保にどの保育園も苦慮している現実があります。この研修を今年度も2回行っていただけるということでとてもうれしく思っています。

子育て家庭のお母様や子育てをリタイヤされた方も参加したいと言われて、一つの活動として前向きに感じてくださり、心強く感じました。職員の研修に派遣するために、その日が人手不足になることがあるので、そういう時にこういった方たちからきていただけると子どもたちも安心できますし、皆様からお手伝いをいただけたらいいなと考えております。

(委員)

年々サービスの種類も増えているようですが、ニーズをつかんだ事業を展開されるとともに、ニーズから外れていった事業については見直しをしていただき、その中で予算どりの事業評価をしていただければと思っております。

医療費の助成につきましては、地味ではありますが保護者の方からすると喜ばれますので、今後も拡充していただければと思います。

ままナビについて、核家族化の影響もあり、ネット社会において点としての知識はすぐに得ることができると思いますが、体系だった体験としての感覚というのは断片的ではなく人から人へ伝えられるものだと思いますので、産前からの知識の伝え方をながおか版ネウボラということで切れ間なく支援いただければと思います。

子育て支援員研修については自分の保育園にも5名ほど子育て支援員研修を受けた方もおり、自分自身も受講させていただいたが非常にいい研修でした。未満児保育の受け入れ、延長保育の受け入れについては支援員の方がいることで可能になっており、人手不足の中非常に助かっています。

病児・病後児保育についてですが、普通の保育園ですと看護師の方が人手不足により病児・病後児保育を展開しにくいところがあります。社会福祉法人や医療法人を中心に、今すぐニーズがあるところだと思いますので拡充してもらえればと思います。冬の時期は特にインフルエンザや感染性胃腸炎などが蔓延し、仕事と子どもの看護に板挟みになっている人は非常に多いと思います。

SNSについても、ネットを通さなくても子どもたちの関わりはいろいろなトラブルを経験して子どもたちは成長していくものだと思いますが、だんだん知恵も付いてきて、保護者から見えにくくなっているところが問題になっていると思います。教育の恩恵によってトラブルを回避できるように取り組んでいただければと思っています。

ながおか子育て最幸プロジェクトについて、若い人が取り組んでいくことがいいことだと思います。目先のことでなく、大勢の方が関わり、楽しんで、失敗や思うようにいかないことがあってもいいと思いますので活発な活動を展開していただければと思っています。

(委員)

SNSの問題は、これを介して子どもの命を奪ってしまうこともあるわけなので、看過できない問題であり、社会全体で一生懸命考えていかなければならない問題だと思います。何よりも子どもの命がどんな施策でもベースにあるわけなので、ここを脅かすものについては、本当にみんなが真剣に考えていかなければならないと考えております。

平成29年度の事業について、新規、充実、拡充する事業で、駅の運営など、長岡の素晴らしい子育て支援事業だと思います。私も3年間委員として参加させていただいていますが、本当に行政が皆さんの意見を取り込んでいい事業を創り上げてくださっていると感じていますが、委員の皆さんがワーキング会議においても一生懸命考えてくださっていて、この会議に出ている皆さんが実際職場などに戻っていった先でもこの支援事業に関わってくださることがありがたいなあと感じていま

すし、これから長岡の子育ても充実していくなと思います。

ただ、長岡市の一部の人たちだけが子育てを考えていてはだめで、本来子育ては地域や身近なところでやるのが大事なことだと思いますが、やはり地域力というのはかなり落ちてきて、高齢化してきていると思います。その中で、80歳くらいの人は地域でまともっていますが、その下の世代になると次をつなぐ方の層が薄くなっていると危惧しています。皆さんが考えていい方向にいつかはいるけど、実際地域につながっていかないという部分があるのかなあと思います。地域のことを考え、地域の手助けをしてくれる人はいるので、その人をつなぐ役目を果たす人がいないので、これからはそういう人を育てたり、まとめる人のことを考えていかなければならないのではないかと思います。このことが、子育て支援事業とは直接関係ないかもしれないけど大事なことなんじゃないかなと、そういう人達とこの会議の委員さんが一緒になると町内の活動も良くなるのではないかと思います。

4. 議事 (3) 平成29年度の長岡市教育・保育施設の利用定員について
(事務局) 資料No.3 について説明

※質疑なし

5. 議事 (4) 平成29年度長岡市青少年健全育成総合対策実施計画について
(事務局) 資料No.4について説明

まず、この計画の内容をこの会議に諮らせていただいていることについて、少し御説明させていただきます。新潟県健全育成条例の中で市町村の責務として、地域の実情に合わせて青少年対策施策を実施するよう努めなければならないと定められております。長岡市では「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」を策定しており、18歳未満の幅広い年代の子どもたちに対する施策を展開しているところですが、より明確に青少年に対する施策を実施するために、毎年行動計画という形でこの計画を策定しております。平成25年度までは長岡市青少年問題協議会という附属機関があり、そこに諮っておりますが、平成26年度にこの長岡市子ども・子育て会議が設置されたことに伴い、その役割をこの会議に包含することにいたしました。

事前に委員の皆様へ平成29年度長岡市青少年健全育成総合対策実施計画(案)をお送りしたところ、たくさんの御意見、御要望をいただきありがとうございました。

いただきました御意見、御要望の中には、大変大きな課題やテーマがあり、本日は御説明する準備が整っておりませんので、今後御説明する機会を設けさせていただいたり、今後のワーキングの機会に、検討、整理していきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

※質疑なし

6. 議事 (5) アドバイザーからのまとめ
(アドバイザー)

今日またこの会議に参加させていただいて感謝しております。というのも皆様の貴重な御意見をこれだけじっくり聞かせていただけたというのがありますし、みなさんのそれぞれのお立場からの気づきをお話しして下さったと感じています。

議題1の「平成29年度長岡市子ども・子育て会議について」ですが、28年度については先程事務局からも説明があったとおり、3つの部会で検討されてきました。29年度については子どもの貧困と発達障害のあるお子さんたちへの支援が挙げられていました。28年度と29年度の大きな違いは、28年度の取組というのは、子育て家庭のにとっては多かれ少なかれ、どこかで関わりがあるテーマであり、例えば企業支援、避難所についてもいつ私たちに関わるか分からない、他人事ではない課題でしたが、29年度については社会では非常に大きな課題にはなっていますが、少数派の問題、課題になっています。そのため、皆さんがこの問題にどれだけ関心を持ち、思いを寄せて取り組むことができるかが29年度のワーキングの中で課題になってくると思います。

今、いろいろなところで子どもの貧困対策が話題になっていますが、見ようとしなければ見過ごしてしまう問題で、正直今まで見過ごしてきたということが現実だと思います。数字として表れてきたから取り組みましようということがあると思いますし、学校現場などでは今までも見てこられていたと思います。そういうものに焦点を当てていくという大事なところになりますので、皆さんがまず関心を持ってアンテナを張っていくところから始めていただければと思っています。

ちなみに新潟市においても、今年度子ども・子育て会議の部会として貧困対策の会議が立ち上がりました。まだ何も進んでいないのですが、新潟県のデータを共有することからスタートしております。29年度につきましては、新潟市の状況を数値的に共有するためにも、アンケートの実施ということになっております。ただ、どのように進めるかについてもこれから検討しなければならない大事な部会になっていると思います。

議題2の「平成29年度の子育て支援事業について」ですが、長岡市が本当に素晴らしいと思うのは、みなさんの声をちゃんと拾ってくださるところです。声を拾われた以上、委員の皆さまはきちんと受け止めなければならないと思いますので、特に公募の皆さんはよろしくお願ひします。専門のお立場の方は、ここで検討したことをそれぞれのところに持ち帰っていただくこととなりますが、市民の皆様には伝わらなければ意味がないと思います。皆さんは直接行政に質問することができると思いますので、内容を咀嚼し、理解して、他のお父さん、お母さんに分かる形で伝えていってください。その循環が動いていくことが、長岡市の子育て環境を高めていくこととなります。行政は受け止めてくださるので、今度はこちらが市民としてどう向き合っていくかということになります。長岡市さんはその循環ができる自治体だと思いますのでよろしくお願ひいたします。

議題3の「平成29年度の長岡市教育・保育施設の利用定員」についてですが、これも計画に絡んでくると思います。来年度は計画のまん中の年になってきますので、ど

この自治体さんも少子化と向き合わざるを得ない状況になってきています。その中で過ごす就学前の子供たちの幼児教育、保育をしっかり受けられる環境づくりを皆さんで見えていただきたいなあとと思います。

議題4の「平成29年度長岡市青少年健全育成総合対策実施計画については、みなさんがたくさん意見を出してくださっていますので、それを拾っていただければと思います。

今日いろいろな意見を共有できたことを次につなげていただきたいと思います。

7. その他

(事務局)

本日の会議を持ちまして今年度の会議は終了となりますが、委員の皆様の任期は2年間となっておりますので、来年度も引き続きよろしく願いいたします。

8. あいさつ

(事務局)

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員長

印

9 会議資料 別添のとおり